

議会だより



進 水 記 念 餅 ま き

7月9日、えりも岬漁港で第五十五洋進丸（駿河友博船主）の進水式が行われ、豊漁を願う餅まきが行われました。

放課後の時間帯とあって、漁協前に係留された船の前には、子どもを含む大勢の人が大きな箱や買い物袋を手に集まりました。

餅まきが始めると、次々と投げられる餅を笑顔で拾い集め、活気に包まれていました。



目 次

P 2	令和8年度 第2回定例会
P 3～7	一般質問 7名10件
P 8～9	北海道町村議会議員研修会 行政視察 鹿追町「鹿追高校」 行政視察 江別「ココルクえべつ」

P10～11	所管事務調査
P12	この人に聞く 地域おこし協力隊を経て町内で起業 ふたば いっこう 二場 一光 さん (30)



6月19日 第2回定例会

補正予算

◎令和7年度

一般会計（歳出）

・財政調整基金積立金

855万2千円
ふるさと納税寄付金の一部を積立

◎令和8年度

一般会計（歳出）

・河川維持費

600万円

大雨により歌別地区で発生した地下埋設管の詰まりを解消する費用

・老人保護費

1780万円

特別養護老人ホーム「やまと苑」のボイラーの更新費用

・こども家庭センター運営費

767万8千円

様々な関係機関と連携して家庭の困難を早期に把握・支援する場として設置



集団検診室をこども家庭センターとして新たに利用

・漁港管理費

42万7千円

漁港トイレの水洗設備や換気設備の修繕費用



庶野・東洋など4ヶ所の漁港トイレを修繕する

条例改正

・えりも町議会議員の定数を定める条例の一部改正

議員定数を11人から10人に改正

工事請負契約

・契約目的

えりも小学校校舎屋上防水・屋根改修工事

・契約金額

6248万円

・契約先

株式会社 ヤマト建設

・契約目的

野球場バックネット解体工事

・契約金額

583万円

・契約先

有限会社 岡崎建設

・契約目的

診療所外周柵補修工事

・契約金額

814万円

・契約先

有限会社 川崎建設



腐食が進む国保診療所の外周柵

人事

・えりも町固定資産評価員の選任

新浜 谷辻 洋（新任）

・えりも町農業委員会委員の選任

庶野 倉田 太郎（再任）
笛舞 能登 浩（再任）
本町 浅木 厚一（再任）
本町 中村 幸子（再任）
東洋 藤井 隆宏（再任）
東洋 高橋 祐之（再任）
大和 石川 昭彦（再任）



なかのきみひろ
中野公浩議員

問 小学校の防犯対策は

答 防犯カメラの設置を優先に検討する

【中野】 小学生の保護者の間では、子どもの安全に対する懸念が日々高まっており、具体的な対策として防犯カメラの設置を求める声が寄せられている。防犯カメラの設置は

事件発生時の迅速な状況把握のみならず、犯罪に対する強い抑止力になるものと考えられる。

また、近年全国的に多発し、当町でも脅威となっているクマの出没監視等にも有効活用できることから、通学路への防犯カメラ設置を検討しては。

【答弁】 児童生徒が毎日安心して登下校し、学校生活を送ることは、最優先すべきことである。

通学路への防犯カメラの設置箇所が広範囲に及ぶことや、撮影範囲における地域住民のプライバシーへの配慮など整理すべき課題はあるが、



登校する児童・生徒。安心安全のために防犯カメラの設置を

児童生徒が日常の大半を過ごす「学校敷地内」への設置を優先に進めていきたい。また、通学路の対応は、防犯カメラを始め、防犯ブザーなど前向きに検討していく。

問 畜産業の今後と旧東洋小の活用は

答 情報収集し可能性を調査研究する



たけうちたかふみ
竹内孝文議員

【竹内】 当町の農業は古くから畜産を主体として行われてきたが、昨今のヨーネ病等の影響により離農する農家が増え、今や牛を飼養している農家は数戸である。

町には広大な町有牧野があり、現在一部放

牧の利用はあるが、ほとんどが採草地で利用されている。町は今後の牧野の活用と畜産のあり方をどのように考えているか。

【答弁】 牧野の活用は、利用農家の経営を支える基盤として適切な維持管理を行っていく。また、畜産振興は既存経営体の維持発展を基本とし、新たな担い手の確保や新規就農者への支援について関係機関と連携し取り組んでいきたい。

【竹内】 廃校となった旧東洋小学校の活用を考えると、当町でも飼養経験のあった「綿羊」やベンチャー企業が行っている「本ワサビの水耕栽培」なども考えられる。

【答弁】 綿羊については近年の羊肉需要の高まりや羊毛利用、観光資源としての活用など、多面的な可能性はあることは認識している。綿羊飼養を新たな産業とするには、様々な課題があり、各地の事例などについて情報収集を行う必要があると考えている。

また、企業誘致も町の地域資源や遊休施設を活用した新たな産業の創出の観点からも重要な取り組みであり、町への進出意向や事業展開の可能性について調査研究をしていきたい。



食肉だけでなく、観光資源としても有力視される「綿羊」



さ な お き
嵯峨直樹議員

問 郷土資料館のあり方は 魅力的な施設 となるよう検討する

【嵯峨】 国立公園の指定から約2年が経過し、資料館および水産の館の観光客来館者の増加が見込まれる。資料館は生涯学習施設としての位置づけに加え、観光振興も担う施設と考えているか。

【答弁】 町の歴史・産業・文化遺産を後世に伝え、町民の学びや活動を支える「生涯学習施設」として位置づけている。

一方、地域の魅力を発信し、文化観光や地域活性化にも寄与する施設として運営を工夫していく考えである。また、入館者数は、年々増加しており、国立公園化による来館者増加の効果を認識している。

【嵯峨】 今後、展示物やデータを更新する予定は。

【答弁】 これまで映像展示の改修、猿留山道の地形模型の設置、動物剥製の追加などを行ってきた。今後も資料整理を進め、展示の入れ替えや情報更新について検討する。

【嵯峨】 来館者が気持ちよく観覧できる環境を整えることは、え

りも町のイメージ向上にもつながる。清掃環境の改善に向け、専門業者を導入する考えは。

【答弁】 現在、職員2名が対応しているが、民間業者の導入は、館内美化や施設の長寿命化に有効と考えるが、運営状況や他自治体の事例を参考に検討する。

当面は職員による清掃の充実や、ボランティアの協力なども活用し、改善を図る。

今後は、町民だけでなく観光客にも選ばれる魅力的な施設となるよう、資料館の在り方を検討していきたい。



上空から見た郷土資料館と水産の館。展示の充実が望まれる

問 津波警報時の学校の対応は

答 児童生徒の安全確保を 最優先する

【嵯峨】 昨年7月と12月、さらに本年4月20日、津波警報が発令され、夏・冬、日中・夜間など異なる状況での避難を経験した。

4月20日は中学校・高校の部活動の時間帯で、多くの生徒が校内に残っていたが、教職員が迅速に生徒を3階へ避難させ、町営野球

場で活動していた野球部も高校体育館へ避難するなど、日頃の避難訓練の成果が発揮されていた。

一方で、授業中に警報が発令された場合や、解除が長引いた場合の対応には課題も残る。

特に、津波警報が長期化しスクールバスを運行できない場合、生徒の安全確保や保護者への引き渡しなど対応が必要と考えるが。

【答弁】 津波注意報・警報が発表された場合、児童生徒の安全確保を最優先とし、原則としてスクールバスは運行しない方針である。

【嵯峨】 避難の最終判断は災害対策本部が行うのか、その指揮系統は。



小・中合同の避難訓練の様子。普段の避難訓練が大切

【答弁】 保護者への引き渡しやスクールバス運行の最終判断は、災害対策本部と密接に連携しながら、原則として教育委員会が行う。今後、防災担当課やバス事業者との連携、マニュアル整備、バス乗車中を想定した避難訓練などを進め、安全対策を強化していく。

「庶野さくら公園」の 管理と整備は 景観維持と利用環境の 向上に努める



おおさかしょうき
大坂庄吉議員

【大坂】 日高山脈襟
裳十勝国立公園の誕生
により、町内の観光ス
ポットのひとつである

【答弁】 公園
の管理は、
「庶野桜保
存会」と委
託契約を結
び、草刈り
や樹木の管

「庶野さくら公園」に
は、多くの観光客が訪
れた。
公園内は草刈りなど
の管理が行われている
ものの、奥へ進むにつ
れて笹が生い茂り、十
分に整備が行き届いて
いない箇所が見受けら
れる。
公園の奥には毎年美
しい花を咲かせる山桜
があるが、ベンチを設
置するなど、周辺を適
切に整備することで、
より快適に
散策や花見
を楽しめる
環境づくり
につながる
と思う。
今後の管
理・整備の
方針は。

理、公衆トイレの清掃
などを行っている。
人の出入りの少ない
公園の奥側など一部に
おいて笹や雑草の繁茂
が見られる状況も確認
しているが、支障のな
いものと判断している。
公園全体の景観維持
や、利用環境の向上に
向け、ベンチの設置も
協議しながら検討した
い。



満開の桜がきれいな「庶野さくら
公園」

学校健康診断 未受診者の対応は 全員が受診できるよう 柔軟に対応

【大坂】 学校健康診
断の日に事情があつて
学校に行けず、健診を
休んでしまった人や、
不登校の児童生徒の対
応は。
健康診断を受けない
ことで、生活習慣病や
側弯症など、早期の治
療を必要とする病気を
見逃してしまうことが
課題となっているよう
であるが、当町での学
校健康診断の実態は。

【答弁】 学校健康診
断は、学校保健安
全法に基づき、児
童生徒の健康保持
と増進を目的とし
て毎年6月30日ま
でに実施するもの
であり、疾病の早
期発見や健康意識
の向上を図る重要
な機会である。
内科・歯科健診
は各学校、結核検
査と心電図検査は、
診療所で実施して
いる。
健診日に病気な
どで受診できなかった
児童生徒については、
別日での受診や、教育
委員会が学校医・学校
歯科医と日程を調整し、
医療機関で受診できる
よう対応している。
不登校の児童生徒に
ついて、集団受診へ
の心理的負担に配慮し、
個別受診を可能とする
など柔軟に対応してい
る。
また、保護者への丁寧な説明や健康状態の



健診は柔軟な対応により実
施されている
(画像はイメージです)

確認、かかりつけ医と
の情報共有を通じて健
康把握に努めている。
今後も、学校医や学
校歯科医と連携し、児
童生徒や保護者に寄り
添いながら、一人ひと
りの健康を守るため、
きめ細かな対応を進め
ていく考えである。

漁業担い手支援補助金の充実を

問

答

制度開始から5年、見直しを検討



うえのようじ 上野陽司議員

【上野】 令和3年度から開始された「えりも町漁業担い手支援補助金」は、漁業者にとって有効な制度である。一方で、資材や燃油価格の高騰、担い手不足など、将来にわたり

漁業を維持させるためには、制度のさらなる充実が必要である。現在の補助額と内容は十分と考えているか。

【答弁】 制度開始から5年を迎えるため、漁協など関係機関と意見交換を行い、現場の事情や要望を把握しながら、より効果的な制度となるよう見直しを検討したい。

【上野】 地区によって組合員資格に違いがあり、新規就業者と事業継承者で支援に差が生じている。公平性の観点から、事業継承者への支援充実や制度見直しが必要ではないか。

【答弁】 補助制度の活用状況に差が生じていることは認識している。漁業を将来にわたり維持するためには、新規就業者の確保に加え、既存経営の円滑な事業継承も重要であること

年度	H27	R 7	増減
正組合員	727	589	▲138
准組合員	101	80	▲21

10年間で組合員は正准合わせて159名減少している

から、漁協など関係機関と協議し、支援制度の見直しを検討する。

【上野】 漁船乗組員の確保が課題となる中、町外者や外国人材の受け入れ促進に向け、雇用する漁業者や新規就業者への助成制度を創設する考えはないか。

【答弁】 新たな助成制度の創設には対象者や支援内容、財政負担などの検討が必要であるため、他自治体の事例や国・北海道の支援制度を調査し、漁業者や関係機関の意見も踏まえながら、効果的な支援策を検討する。

問

答

「札幌えりも会」との更なる連携強化を 交流拡大と情報発信の強化を進める



おおばふみひろ 大場文裕議員

【大場】 来年40周年を迎える「札幌えりも会」は、多様な人材が集う組織であり、観光振興や特産品の販路拡大、ふるさと納税、人

材育成などで連携が期待される。

人口減少・少子高齢化への対応として、町外に住む故郷にゆかりのある人々とのつながりを活かすことが重要であると思うが、現在の「札幌えりも会」との連携状況は。

【答弁】 町では、毎年の札幌えりも会総会や懇親会への参加、海と山の幸フェスティバルへの招待などを通じて交流を続けており、会員の皆様には町に対して様々な応援していただいている。

【大場】 交流や情報発信の充実による関係人口拡大への考えは。

【答弁】 今後も広報紙の送付に加え、SNSなどを活用した情報発信の充実を図り、さらなる交流や関係人口の拡大につなげていきたい

今年開催された札幌えりも会の懇親会も盛況に終えた



と考えている。

【大場】 「札幌えりも会」を対象とした、地元食材の試食会などを開催し、特産品やふるさと納税、企業版ふるさと納税のPRを行う考えはないか。

【答弁】 ふるさと納税や企業版ふるさと納税の推進に効果が期待されることから、会員の高齢化や既存事業との調整も踏まえ、実現の可能性を検討する。



たかまつ しろ
高松亮裕 議員

コンブおかまわり マッチングアプリの開発は 実現の可能性を含め 慎重に検討する

問

答

【高松】 コンブおかまわりで「働きたい人」と「働いてほしい人」をマッチングするえりも町独自のアプリ開発

についての検討は。

【答弁】 他自治体の事例や民間サービスの活用状況などを調査した。

人材確保の有効な手段ではあるが、初期費用や維持管理費用、利用者数の確保、個人情報管理、安全対策など、多くの課題があり、実現の可能性を含め慎重に検討を進める。

さらに、手数料を発生させないために、運営会社を介さず当事者同士が直接契約する仕組みについても、労働条件の整理や事故発生時の対応など、関係法令も踏まえ、調査・研究していく。

【高松】 「コンブ一日体験」や「土日のみ就労」が可能かどうか

漁業者に確認し、それで良いとなれば、キャンプ場や風の館でチラシを配布し、勧誘する

ことでコンブおかまわりの確保に貢献できるのでは。

【答弁】 今後、漁業者の意向を確認しながら、既存の求人情報の活用や観光施設での情報発信など、実施の可能性を検討していく。

町としても、漁業分野の担い手不足は重要な課題と認識しており、少しでも多くの事業者と働き手とのマッチングに努めていきたい。



キャンプ場の利用者に興味を持ってコンブ体験に誘った

ウニ・コンブ養殖を目指す 協議会の設置を 現実的かつ実効性のある 取り組みを進める

問

答

【高松】 コンブの大産地である南茅部や利尻、羅臼では、天然コンブの水揚げが減少し、コンブ養殖が盛んに行われている。

また、ウニを一定期間陸上養殖し、餌を工夫して大粒で色や味の良い「えりもウニ」のブランド化を図れないか。

関連する多くの方が参加し、えりもの漁業の将来について継続して議論する協議会を設置することを強く願う。

【答弁】 コンブについてはこれまで、漁協をはじめ専門機関と情報交換し、現場の漁業者からも漁場環境の変化や将来の危機感について意見を聞いているが、海況条件や技術的課題、経営面での安定性など、慎重に検討すべき点も多く存在する。

ウニについては地域ブランド化の可能性はあるが、実用化には技

えりも漁協直販所でシーズンになると販売される塩水ウニと塩ウニ



術的検証と長期的な取り組みが必要である。

今後、多様な関係者と単なる意見交換の場にとどまらず、具体的な課題整理や実証事業への展開を見据えた体制づくりに向け、協議会の設置の可否も含めて検討する。

町の基幹産業である漁業の持続的発展と所得向上は極めて重要であり、現実的かつ実効性のある取り組みを進めていきたい。

7月3日：行政視察 ココルクえべつ

江別市で社会福祉法人日本介護事業団が運営する「ココルクえべつ」を視察した。

本施設は、江別市が掲げる「生涯活躍のまち」を提唱し、目的は

- ①市民が住み慣れた地域で生涯にわたって安心して暮らし続けられるまち
- ②子どもや若年層、障がい者、高齢者など多様な主体が交流できる「共生のまち」
- ③事業者が主体となり、江別市、自治会、市内4大学、商店街などが連携し活力あるまちを目指している。

同施設は令和3年度にオープン、約3万平方メートルの敷地内には、特別養護老人ホーム80床、介護老人保健施設80床、通所デイケア20名、看護小規模多機能型居宅介護事業所登録定員29名、居宅介護支援事業所、生活介護、通所リハビリテーションなど、介護、医療、職場、子育て支援として企業主導型保育所も設置している。

また、障がい者グループホーム男女各10名、サービス付き高齢者向け住宅50室等の施設が併設されており、いずれも住環境が整備されている。



コ
ー
デ
ィ
ネ
ー
ターから施設概
要と
運
営
状
況
の
説
明
を
受
け
る

温
泉
水
を
利
用
し
て
ト
ラ
フ
グ
の
養
殖
を
し
て
い
る



地域交流の場として、年齢・国籍・障がいの有無を問わず誰でも参加できる「交流サロン」、未就学児と保護者の方々を対象とした「あそびと交流の場」など、地域の方々が楽しめる「地域交流事業」を毎月開催している。

また、施設内には障がい者就労支援施設があり、施設内で養殖されたフグを利用したレストラン、江別産小麦を使用したパン工房、うどん店、併設された天然温泉で多くの障がい者の方が自立に向けて働いている姿に感銘を受けた。

今後も多世代と交流する「共生のまち」実現を目指し、拠点施設(ココルクえべつ)を中心に

年間数多くの様々なイベント(多世代交流サロンC0C0カフェ・重度肢体不自由児者、医療児ケア親子交流サロンなど)を開催していくとのこと。

介護施設での人手不足は深刻になっており、現在はミャンマーやネパール人16名が在籍しているが、今後も外国人のスタッフの確保が必要であるとのことであった。

施設を視察し、未来に向けた運営の見本となる取り組みであると認識した。



介
護
老
人
施
設
(特
別
養
護
老
人
ホ
ー
ム)
前
に
は
入
居
者
・
保
育
所
園
児
用
の
畑
が
あ
る

7月1日：行政視察 鹿追高等学校

えりも高校の存続や二間口を維持するには何に取り組むべきか、生徒獲得に町を挙げて取り組んでいる鹿追高校を視察した。

鹿追高校は道立高校であるが、少子化が進む中、高校の存続は町の未来と直結しているという考えのもと、設置者（北海道）の枠を超えた支援を続けている。

【全国募集までの道のり】

令和2年：町内中学校卒業生の減少により入学者が28名に急減したため、全国から生徒を招く抜本的な対策の検討が始まる。

令和4年：全国生徒募集（地域みらい留学）開始。あわせて「高校教育支援条例」「鹿追高等学校支援基金条例」を制定し、支援体制を法的に整備。

令和5年：全国から来る生徒の居住環境を整えるため、シェアハウス12室の運営を開始。

令和6年：公設寄宿舍40室を新設。入学者75名に回復（うち道外9名、管外7名）

令和7年：シェアハウス21室増室完了（合計33室）寮総定員73室が整う。入学者79名（うち全国から管外10名、道外10名）

鹿追町はカナダ・アルバータ州ストニープレイン町と1985年に姉妹提携を締結し、それ以後、交換留学生の派遣や受け入れを行っている。

全員参加型のカナダ短期留学派遣は鹿追高校最大の事業であり、留学費用の9割は町が負担している。

2年生全員が約2週間、同町でホームステイをしながら地元の高校と交流を深めている。

鹿追町の魅力について
プレゼン資料を作る授業
を見学



英語の授業ではカナダに行くという実践的な目標があるため、英語学習に対する意欲が高く、先生と生徒の会話のすべてが英語で行われており、レベルの高さを実感した。

生徒全員が明るく挨拶をしてくれ、学校内の雰囲気は良好であった。

町長は「高校がなくなると町に活気がなくなり衰退してしまう」と言っていたが、それは当町も同じであり、鹿追高校から学ぶことは多いと感じた。

7月2日：北海道町村議会議員研修会

講演： 関東学院大学 法学部 地域創生学科
教授 牧瀬 稔 氏

演題： 地方議員への12の政策アイデアから
人口維持を目指す実践実例

講演： ジャーナリスト
須田 慎一郎 氏

演題： どうなる政治・経済
～日本再生のために何が必要か～



漁村センター解体工事について

【目 的】

利用されていないえりも町漁村センター及び隣接する旧えりも漁協事務所の解体工事と跡地利用の調査。

【現 状】

漁村センターは昭和54年に建設されたが、現在は利用されておらず、旧えりも漁協事務所と併せて解体し、工事は本年7月から来年1月までを予定している。費用は事務所所有者であるえりも漁協にも負担を求める方針である。

跡地については、商店街に近い立地を生かし、駐車場としての活用が検討されている。

【課題・要望】

工事期間は、関係者や周辺住民との十分な調整を図り、騒音や安全対策に配慮しながら、影響の最小化に取り組むことが重要である。また、跡地には国有地が含まれるため、権利関係を整理した上で適切に手続きを進めるとともに、駐車場に限定せず、地域活性化につながる有効な利活用について幅広い検討を求める。



解体される漁村センター（手前）と旧えりも漁協事務所（奥）

ウニ資源の現状について

【目 的】

令和3年秋の赤潮被害により壊滅的な打撃を受けたウニ資源の回復状況と、今後の資源管理・振興策についての調査。

【現 状】

種苗放流個体や生存個体が確認され、令和6年度から一部地区、令和7年度からは町内全地区で順次漁が再開されている。

水揚げデータからも資源は回復傾向にあるものの、漁獲量の伸びは限定的であり、引き続き資源の推移を注視する必要がある。また、ウニ価格は高値で推移しており、「えりもうに祭り」の再開については、漁協が需給動向を踏まえ判断することとしている。



老朽化した「ウニ種苗センター」

【課題・要望】

資源回復を着実に進めるとともに、安定したウニ種苗生産体制の構築と一層のPRを図ることが重要である。また、①春ウニのブランド化など高付加価値化の推進、②老朽化が進むウニ種苗センターの施設更新と技術者の育成・確保、③他地域の先進事例を参考とした養殖事業導入の効果検証については、漁協と連携しながら協議・検討を進めるよう求める。

えりも町観光振興計画の策定状況等について

【目 的】

令和9年度から令和13年度を計画期間とする「えりも町観光振興計画」の策定状況と、今後の観光振興の方向性について調査した。

【現 状】

町は有限責任監査法人トーマツの支援を受け、観光計画策定委員会で計画策定を進めており、本年9月に計画案を取りまとめ、来年4月の施行を予定している。また、DMO（観光地域づくり法人）に先立ち、地域資源の収益化を担うDMC（町づくり会社）の設立準備を進め、観光拠点整備などを重点事業としている。

【課題・要望】

DMC設立では、RVパークなど受入環境の整備や「食・体験」を生かした滞在型観光を推進し、持続可能な観光地域づくりを進めることが重要である。また、観光協会の再構築を含めた官民連携体制の確立を求める。さらに、主要観光拠点の駐車場有料化は、観光客減少を招かないよう慎重な検討を望む。

所管事務調査

総務文教常任委員会
委員長 橋本維広
副委員長 神田 修
委員 川村一治
竹内孝文
大場文裕

産業民生常任委員会
委員長 上野陽司
副委員長 中野公浩
委員 成田一人
大坂庄吉
嵯峨直樹

議長 高松亮裕

調査日 令和8年5月22日（金）

廃棄物処理について

【目的】

清掃センターの焼却停止後のごみ処理体制や最終処分場の運用状況、今後の広域処理の方向性についての調査。

【現状】

令和6年12月のごみクレーン故障以降、清掃センターでの焼却を停止し、現在は様似町や広尾町などへ焼却を委託している。

ごみ総量は減少傾向にある一方、可燃ごみへのプラスチック混入が多く、焼却炉への負荷が課題となっていることから、様似町と共同で分別啓発を進める予定である。

最終処分場は供用開始から22年が経過し、残余容量は28,823m³で、現在の埋立状況では約122年間の使用が可能と見込まれている。

町指定ごみ袋は十分な在庫を確保しており、現時点で価格改定の予定はない。

【課題・要望】

再資源化を推進し、プラスチックごみの分別徹底による可燃ごみの減量化と処理費用の縮減を図ることが重要である。また、最終処分場は長期管理を見据え、不測の事態に備えた維持管理体制の充実を求める。

ごみ袋については、供給状況や価格動向を町民へ適時適切に情報提供することを望む。

令和10年度以降は新ひだか町への焼却委託を予定していることから、安全運転の徹底と交通事故防止、運搬・処理コストの抑制に配慮するとともに、日高東部3町による広域処理や共同処理施設の整備についても検討を進めるよう求める。



焼却を停止した「えりも清掃センター」

町営野球場バックネット解体工事について

【目的】

令和7年12月の暴風で被災した町営野球場バックネットの状況と今後の整備計画についての調査。

【現状】

暴風により、バックネットを支える主ワイヤーが切断され、倒壊の危険性が高まった。これまでもワイヤーの補強を実施していたが、町内各地の被害状況からも、当時は非常に強い暴風であったことがうかがえる。

担当課によると、改修費用は3,000万～5,000万円程度を見込み、今年度は解体工事のみを実施し、令和9年度に同規模のバックネットを整備する計画である。

解体工事が本年5月から8月までとなり、その後に整備を行ってもシーズン外となることなどを踏まえ、総合的に判断したとの説明を受けた。現在は安全確保のため仮設ネットを設置し、利用をえりも中学校及びえりも町役場野球部の練習に限定するとともに、公式戦等の開催を中止している。

【課題・要望】

整備まで時間的な猶予が生じることから、既存の柱や資材の再利用を含め、複数の施工方法を比較し、費用対効果の高い整備手法について十分な検討を求める。また、工事期間中は利用者の安全確保と事故防止を最優先とし、安全対策を徹底すること。併せて、各種公式戦の早期再開に向け、可能な限り整備の前倒しを図ることを望む。



暴風で被災した町営野球場バックネット

この人に聞く

地域おこし協力隊を経て
町内で起業
ふたば いっこう
二場 一光さん (30)



1996年に神奈川県横浜市で生まれ、4歳から高校卒業までは千葉県千葉市で過ごす。帯広畜産大学卒業後は東京のベンチャー企業に就職。その後、札幌の飲食店へ転職し、えりも町の地域おこし協力隊を経験した後、町内で起業し現在、精力的に活動中。

▼なぜ、えりもに残ろうと思ったのですか

地域おこし協力隊として3年間は、陸上少年団の指導や昆布漁のお手伝いなどを通して、本当にたくさんの町民の皆さんと関わることができました。その中で、えりもの人たちの温

かさ、困った時に自然と助けてくれたり、気にかけてくれたりする、その優しさがとてもうれしくて、この町がどんどん好きになり、「この町に残りたい」と思うようになりました。

▼「スナックこんば」を始めたきっかけは

前経営者から声をかけていただき、昨年10月から今年2月まで『お試し期間』としてお店に立たせてもらいました。

その後、店舗を居抜きで譲っていただけることになり、自分で経営することを決めました。

▼会社をつくったと聞きました

地域おこし協力隊の先輩でもある鈴木亜室さんと一緒に、『合同会社EICLAN(イー克蘭)』を設立しました。

社名には、『えりもの仲間』『良い仲間』『エンジン(愉しむ仲間)』『エン

パワー(力づける仲間)』などといった思いを込めています。

現在は、灯台公園トイレやえりも岬駐車場トイレの清掃、庶野さくら公園のゴミ回収などを行っています。3人のアルバイトスタッフにも協力してもらいながら仕事をしています。

▼今後の展望は

まずは「スナックこんば」に新しいお客さんが来てもらえるよう、ダーツを置いたり、ライブ等の様々なイベントを開催したいと思っています。

また、建物の一部を改装して簡易宿泊所をつくり、宿泊できる場所にするとも考えています。

帯畜大で造っている日本酒を船で揺らしたり、海底で熟成させたりして、えりもの新しい名産品として発信できたら面白いなと思っています。

町の活性化という意味では、自分の経験が『えりもで起業してみたい』という人の参考になればうれしいです。

▼えりも町民へ一言

「スナックこんば」の営業時間は午後3時から10時まで、アルコール飲料も含め飲み放題20分800円、カラオケは無料ですので、ぜひ、気軽にいらしてください。



お客様の相手をしながら洗物をする二場さん

終始笑顔で、これまでの活動やこれからの夢を楽しそうに話し、最後には「恋人募集中です!」とユーモアたっぷりの一言で場を和ませてくれました。

えりも町に根を下ろし、新たな挑戦を続ける二場さんの今後ますますの活躍が楽しみです。(上野)

議員雑感

北海道には梅雨がないと言われていますが、7月に入り雨や曇りが多くムシムシした日々が続いています。2週間先の天気予報も晴れはなく雨や曇りとなっています。これはまさに「えぞ梅雨」だ!

えりも特有の霧(ガス)で、車の運転時には前が見えないこともあります。

そんな時にシカやキツネ、タヌキなど野生動物が飛び出すことがありますので、交通事故には十分に気を付けてください。

晴天のもと、コンブ漁が順調に操業できることを心から願っています。

(中野)

広報広聴常任委員会

委員長 竹内 孝文
副委員長 上野 陽司
委員 大坂 庄吉
中野 公浩
嵯峨 直樹
大場 文裕